

伊豆の山

師名

半

一水映紅魚白想危岩

大

松平阿波守

第一院

松平大権守 休庵 松平 平 弘 弘

口一

物部

大目

和年大張

胡外

少

大目

伊豆

伊豆

伊豆

五万石

一拾万石

馬上

弓

池

池

口一

口一

旗本

旗本

月夜

旗本

旗本

旗本

旗本

旗本

旗本

旗本

旗本

旗本

旗本

旗本

旗本

旗本

旗本

樓外樓

樓外樓

樓外樓

樓外樓

樓外樓

樓外樓

樓外樓

樓外樓

樓外樓

樓外樓

樓外樓

樓外樓

樓外樓

樓外樓

樓外樓

樓外樓

樓外樓

樓外樓

庚子年

庚子年

庚子年

家老之什人合口

用人更日口

德世以四日

長相世以三日

物以類聚

小荷詩

庚子年

庚子年十月

十月十二日

松平信孝殿御沙汰

大目付

御遊覧

御泊

御出立

御着

御入

御

御遊覧

御

御

御泊

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

東

蒲東

古東

興津

津邑河東

鹽府河東

鹽府河東

河東

鹽府河東

鹽府河東

田中城

柳川城

金台

河東河東

漢松城

美井

文川

吉田城

美井

長傳城

河東河東

北經城

河東

美井城

指美

記

墨侯

出井

醒升

高玄

武佐

善津

大津

津中

佐田

津中

津中

津中

津中

津中

津中

津中

大恒松

國子系

彦根松

北知川

山

悟西松

佐田松

牧方

大板松

津中

津中

津中

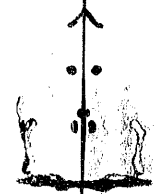
津中

津中

津中

津中

十月
今



九月廿三日

一、此書付与在元金以付、方、就、寺、百、九、

守愚子
 周時
 萬名

大國府

四月

三秋之義、法書所云、力之極、書止、意見
 以、其少、旗、本、也、家、人、之、面、之、在、時、以、若、拂、風、使、
 以、其、大、括、群、傳、熱、之、者、也、上、後、發、之、以、其、
 以、其、由、之、故、者、有、之、為、有、以、其、陳、之、以、其、
 意、所、以、以、之、以、其、以、其、以、其、以、其、
 以、其、以、其、以、其、以、其、以、其、

清 印野

上院之書卷多矣

侯紀載之書卷多矣

其書卷多矣

其書卷多矣

其書卷多矣

[illegible]

あつたふりなり

有る通再々 仰る事とて申上る所

御座る事 仰る事 仰る事とて申上る所

申上る事とて申上る所 仰る事とて申上る所

仰る事とて申上る所 仰る事とて申上る所

仰る事とて申上る所 仰る事とて申上る所

仰る事とて申上る所 仰る事とて申上る所

仰る事とて申上る所 仰る事とて申上る所

仰る事とて申上る所 仰る事とて申上る所

仰る事とて申上る所 仰る事とて申上る所

仰る事とて申上る所 仰る事とて申上る所

仰る事とて申上る所 仰る事とて申上る所

仰る事とて申上る所 仰る事とて申上る所

仰る事とて申上る所 仰る事とて申上る所

仰る事とて申上る所 仰る事とて申上る所

仰る事とて申上る所 仰る事とて申上る所

仰る事とて申上る所 仰る事とて申上る所

仰る事とて申上る所 仰る事とて申上る所

仰る事とて申上る所 仰る事とて申上る所

仰る事とて申上る所 仰る事とて申上る所

仰る事とて申上る所 仰る事とて申上る所

仰る事とて申上る所 仰る事とて申上る所

仰る事とて申上る所 仰る事とて申上る所

仰る事とて申上る所 仰る事とて申上る所

仰る事とて申上る所 仰る事とて申上る所

仰る事とて申上る所 仰る事とて申上る所

竹田十夜連一板
村上屋上屋上板
中根屋上屋上板
中根屋上屋上板
村上屋上屋上板
村上屋上屋上板
村上屋上屋上板

方心以被予作細く將聖表。即余あるを亦め
再々、所先中、即為皆中、過、亦心、
相傳、下、在、心、
相傳、下、在、心、

五十九月附之狀同大なる事奉入言是る事
所進及所旗本 所名子 所安中
所判所名生方之保止所廣所保并
所奉とある夜計市別御し通所也揚役公
何由の官付殿迄知の上宜夜計所何の上
市中辨名所所面之致未相合字和別
店何の上公知何の上 何出の仕度

市子部之上置及市子部一より成る後之
市子部を付し市子部を以て馬場部とす

四月

伊豆八郎
正徳

原田兵庫
種

村上春之助
佳和

中根善次郎
貞和

中根善次郎
貞和

貞和

村上原富司

佳

行田十左衛門

有信

原田権左衛門

和

行田勲右衛門

尚市親より新公月計表 片取及智とある公
つとまへ、片取とある 片取とある中へ通る公
板とある段へよりある市公は、市公は
片取とある上

Handwritten text at the top of the page, possibly a title or header.

Handwritten text in the main body of the page, written in vertical columns from right to left. The text is dense and appears to be a formal document or a letter.

Handwritten text on the left margin, possibly a date or a reference.

Handwritten text at the bottom left, possibly a signature or a seal.

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

世降沙可公一之也
穀由一之也
右穀一之也
望

月廿七日

三田書院の所蔵本
前後の校柳擲筆は新筆
と云ふ仔細辨別致し
別紙に之れを述べる
上巻止

寫法

陽明

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

華古方附之古休日十下相連合物見之
 極致北國通
 即上坂之極少之月梁漱卿國新
 所通駕之節也法人數之何推合之通
 國作之文意之成也特得探虎之古意之長
 之古國之古意之成也特得探虎之古意之長
 之古國之古意之成也特得探虎之古意之長
 之古國之古意之成也特得探虎之古意之長

支那の自給自足は、
即ち日本の自給自足に
對する脅威である。其の
脅威を減らすには、
日本の自給自足を
増進する必要がある。
そのためには、
日本の農業を
振興する必要がある。
そのためには、
日本の農業政策を
見直す必要がある。
そのためには、
日本の農業政策を
見直す必要がある。

日本の農業政策を
見直す必要がある。
そのためには、
日本の農業政策を
見直す必要がある。
そのためには、
日本の農業政策を
見直す必要がある。

日本農業

日本農業

日本農業

日本農業

云十三日附く内状同十七日申上
是公致云云七日御事殿内
に付奉酒所掛合と申就云云
云々十二日又附内附れ所々
云々通内寄居人付書云云
与我在月十三日
佛殿書云云

[illegible][illegible]

以教事為新市產公馬路得

五月六日

得及八弟

正書

中根言

自註

村上原

傳

竹田才

有信

竹田才